

## 71. <ミャンマーの下水道>

※写真はPDFファイルで添付されています。

ここ何年か、JICA（国際協力機構）の集団研修「下水道技術・都市排水」コースに参加しています。このコースには、開発途上国の下水道技術者が参加し、講義、現場見学などで学習すると共に、個々の研修生が抱える問題点を提示し、研修で得た知見を基に解決策を検討し、レポートにまとめる、という「ケーススタディ」を実施しています。私は、このケーススタディについて何人かの研修生に対し、レポート作成のアドバイスをするという役割をしています。モンゴルの下水道は意外と普及している、ヨーロッパ諸国の領土から独立した国は老朽化した下水道で大変、など各国それぞれの状況がわかり、楽しみにしている役割でもあります。

昨年の研修には、この5月にサイクロンで甚大な被害を受けたミャンマーから研修生が参加しました。彼女によると、ミャンマーで下水道があるのは、新首都ネピドーと旧首都ヤンゴンだけということでした。ヤンゴン市では、イギリスに統治されていた時代（第2次世界大戦前）に建設された下水道が市内中心部の商業地区（昨年、暴動で日本人ジャーナリストが殺害された地域）だけにあり、下水処理場は昨年建設されたということです。それまでは、収集された下水はヤンゴン川に直接放流されており、汚濁がひどいため、ようやく処理場が建設され、供用開始の運びとなったということでした。ただ、処理場技術者はいないので、試行錯誤しながら試運転をしているとのことでした。カンントリーレポート作成にあたり、研修生の職場の同僚にメールを送り足りない情報を収集しているのですが、ミャンマーではメールは届かないし、インターネットも使えないという状況で、新首都の下水道の情報も、当然ながら入手できませんでした。

20年近く前ですが、イラクからの研修生がバグダッドの処理場の話をしていたのを思い出します。あの処理場は今でも動いているのでしょうか。爆破されてしまったのでしょうか。

下水道を支えるものに、平和、自由なども付け加えないといけないようです。

<藤本 裕之 >

※ J S 技術開発情報メール No. 79 号(2008/6/4)に掲載